常照
第８４０号

親鸞聖人著作『教行信証』

正式名を『顕浄土真実教行証文類』（けんじょうど しんじつ きょうぎょうしょう もんるい）と称し、五十二歳の親鸞聖人が関東にご滞在中の元仁（げんにん）元年（１２２４年）頃に執筆、京都に戻られ、九十歳のご臨終間際まで加筆修正なさったといわれる、私たち浄土真宗の根本聖典です。各寺院で毎朝勤めるおあさじでは、その一部である『正信偈』（しょうしんげ）を必ず読誦する程の大切なみ教えです。

内容は、お念仏のみ教えが正しい理由を、インド・中国・日本の浄土教の七高僧（しちこうそう）の著書や釈尊の経典を引用しながら解釈し、それを裏付ける膨大な根拠を挙げています。全６巻の中の化身土巻（けしんどのまき）は、方便（人を真実の教えに導くため、仮にとる便宜的な手段）の教えよりも真実の教えを選ぶべきことを明らかにしています。

前（さき）に生まれん者（ひと）は後（のち）を導き、後に生まれん者は前を訪（とぶら）え

（『教行信証』化身土巻）

【意訳】先に生まれた者は後に生きる人を導き、後の世に生きる者は先人の生きた道を問いたずねよ。

この引用文は七高僧の一人、中国の

僧である道綽（どうしゃく）の著作『安楽集』の一節でもあり、全体的には我が子の非道に苦しむ母親に対して述べられた『観無量寿経』の解釈書として知られています。

ポーランドを訪ねて

第二次世界大戦の終結は話題に上るが開戦についての話題が少ないのは何故だろうと考え、以前にグダンスクを訪れました。ここはポーランドにある港湾都市で、琥珀（こはく）と交易によって栄えたバルト海に接する美しい都市です。１９３９年、この都市の岬にドイツ軍が奇襲をかけ、結果的にこれが第二次世界大戦の勃発を招きました。砲撃を受け廃墟となった鉄筋コンクリートの建物は現在も保存され、鉄筋が剥き出しとなり、崩壊しかかった内部への出入りも自由（但し、自己責任）なので、爆撃の生々しさが直に伝わってくる展示は、日本にはないものでした。

更に私は、１９４０年代初頭にナチス・ドイツによって建造されたユダヤ人強制収容所も２カ所訪問しました。強制労働を課すことで効率的にユダヤ人を絶滅に追い込むために銃殺、人体実験、ガス室へと激化した狂気に満ちた施設です。訪問前までヒトラーを独裁者だと思っていましたが、選挙で民主的に選ばれ、合法的にユダヤ人を収容施設に送り込んだことを初めて知り、戦争を経験していない私は、資料や証言を聞いて「分かったふり」で勘違いしていた我が身を恥じました。訪れたマイダネク収容所には、一日に千人の遺体を焼いた焼却炉やガス室が完全な形で残され、オシフィエンチム（アウシュヴィッツ）収容所では、長崎での布教で有名なコルベ神父が

投獄された餓死牢や収容者の劣悪な居住区が生々しく残されています。加害者側が深い反省の念に立って過去を検証し、被害者側は静かに、本当に静謐（せいひつ）にそれを受け止める展示がなされていることに、心が突き刺さる思いでした。どのような状況で狂気の沙汰が展開されたのか、民主主義の脆（もろ）さを知る貴重な訪問でした。

先人に学ぶとは？

今年で戦後七十八年を迎えた今日も、ウクライナ情勢に加え、中東でも戦争が勃発しました。私たちは民主主義の下、平和を享受していると錯覚してはいないでしょうか。極論で申せば、今後、民主主義による暴挙も起こり得る可能性を秘めていると私は受け止めています。

先人に学ぶとは、皆さんのご先祖に学ぶということでしょうか。過去に学んでも、残念ながら戦争の悲劇は繰り返されます。私たち仏教徒は「亡き方が往生された極楽浄土に学ぶべき」と、私は考えています。極楽浄土は、故人が永眠する世界とは異なり、あらゆる命が尊重され平等に救われる教えを発信している世界です。だから、「後に生まれん者は前を訪え」なのです。聖人が教行信証を執筆された頃は、承久（じょうきゅう）の乱により、朝廷（貴族）と幕府（武家）の力関係が逆転した時期とほぼ重なります。歴史の転換期を経験された「先人」としての聖人のお言葉を、私たち真宗門徒は次の世代へと受け継ぐ使命があり、それが平和を希求する機縁に結び付くと思います。

民主主義に甘んじず、日頃の生活の中に、仏法に我が身を照らす習慣を皆で心がけませんか。

合掌　お念仏申しましょう。

令和六年 法事表

一周忌	令和五年	寂
三回忌	令和四年	寂
七回忌	平成三十年	寂
十三回忌	平成二十四年	寂
十七回忌	平成二十年	寂
二十三回忌	平成十四年	寂
（二十五回忌）	平成十二年	寂
二十七回忌	平成十年	寂
三十三回忌	平成四年	寂
（三十七回忌）	昭和六十三年	寂
五十回忌	昭和五十年	寂

※詳しくはお寺にお尋ねください。

一月の常例布教（ご法話）のご案内

○前期　一月九日（火）～十一日（木）
福井教区 吉田組 崇敬寺
講師　瓜生 順法 師

○後期　一月十三日（土）～十六日（火）
北海道教区 十勝組 誓願寺
講師　頓宮 彰玄 師

○場所　小樽別院内

○時間　午後二時（法要終了後）～
午後三時半

浄土真宗のみ教えについて布教使にご法話をして頂きます。
どうぞお誘い合わせ頂き、ご聴聞に来院ください。
席の間隔を保ち、換気実施の上、お待ちしております。

発行所
〒047-0017
小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院
電話（〇一三四）二二一〇七四四番
FAX　二二九一四〇八〇番
テレホン法話　二二七一一六一六番